

# 2025年度入学者用（地域創造学類）

## 1. 授業科目の配分

大学の教育は、共通教育科目と専門教育科目に大きく区分されており、それぞれの区分の中から、必要な単位を修得しなければなりません。両科目とも、1年次から配置されていますが、共通教育科目は主として低学年で、専門教育科目は高学年で修得するよう配置されています。

学 年	授 業 科 目 の 配 置
4 年	<b>専門教育科目</b> 学域G S 科目 学域G S 言語科目 専門基礎科目 専門科目 自由選択科目  <b>共通教育科目</b> 導入科目 G S 科目 G S 言語科目 自由履修科目 基礎科目 初習言語科目
3 年	
2 年	
1 年	

## 2. 卒業要件

### (1) 卒業要件

卒業するためには、地域創造学類細則別表第1Aの要件を充足しなくてはなりません。

地域創造学類細則 別表第1A 単位修得要件

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	36 単位以上	大学・社会生活論 1 単位	28 単位以上
	G S 科目（6 群）		データサイエンス基礎 1 単位	
			国際・地域概論 1 単位	
	G S 言語科目		各群から 2～3 単位 計 15 単位	
	自由履修科目 ※1		Practical English コース 4 単位、E A P コース 4 単位	
	基礎科目		2 単位以上	
	初習言語科目		1 言語 8 単位	
専門教育科目	学域G S 科目 ※2	88 単位以上	アカデミックスキル 1 単位 プレゼン・ディベート論 1 単位	6 単位以上
	学域G S 言語科目		学域俯瞰科目	
			データサイエンス応用系科目 2 単位以上	
	専門基礎科目		2 科目 2 単位	
	専門科目		8 単位	
自由選択科目 ※3	54 単位			
卒業に必要な単位数		124 単位以上		

※1：共通教育科目における自由履修科目は、G S 科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びG S 言語科目を除く）を指す。

※2：学域G S 科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するG S 科目発展系科目群の修得単位を含む。

※3：専門教育科目における自由選択科目は、学域G S 科目、専門基礎科目、専門科目の最低修得要件を超えて修得した科目及び他学域・他学類の授業科目を指す（ただし、専門基礎科目のうち選択科目は4 単位まで自由選択科目として認定する）。

備考 1. 共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目の履修に関する規程の定めるとおりとする。  
2. 専門基礎科目の履修方法は、別表Aに定めるとおりとする。

(2) 学域GS科目・学域GS言語科目・専門基礎科目の履修

学域GS科目，学域GS言語科目，専門基礎科目については，人間社会学域規程別表第3-1，第3-2及び別表Aにしたがって単位を修得する必要があります。

【学域GS科目】

学域GS科目は，共通教育科目のGS科目と同じように金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に対応して開講する専門教育科目です。アカデミックスキル（1年次・Q1・1単位），プレゼン・ディベート論（1年次・Q2・1単位），データサイエンス応用系科目2単位以上を含む計8単位以上を修得する必要があります。8単位を超えて修得した単位は，自由選択科目として卒業要件に含めることができます。

〈注意〉地域創造学類の学生は，「地域創造学1・2」は専門基礎科目として必修になりますので，学域GS科目としては履修することができません。

また，**学域GS科目は，システム抽選対象科目**となります（アカデミックスキル，プレゼン・ディベート論を除きます）。履修登録期間内の登録者数が各科目の適正人数（受講上限数）を超えた場合，履修登録期間終了後に，**共通教育科目と同じくシステムにより抽選が行われます**。

履修登録補正期間になると抽選結果をアカンサスポータルで確認できますので，履修が許可されなかった場合や履修登録を間違えた場合は，補正を行ってください。なお，操作方法等は共通教育科目のシステム抽選対象科目と同じです。

人間社会学域規程 別表第3-1 学域GS科目単位配当表

科目区分	科目番号	科目名	学 年	単位数	備考（履修制限等）	
専門教育科目	初學者 科目	10301	アカデミックスキル	1	1	重複履修不可
		10302	プレゼン・ディベート論	1	1	重複履修不可
	学域俯瞰科目	10016	ジェンダーと教育	1～4	1	重複履修不可
		10019	異文化理解 1	1～4	1	国際学類生は学域GS科目としては履修不可
		10020	異文化理解 2	1～4	1	
		10090	国際学入門E	1～4	1	
		10091	日本文化E	1～4	1	
		10021	文学概論 1	1～4	1	
		10022	文学概論 2	1～4	1	
		10023	世界遺産学	1～4	1	
		10059	ルールリテラシー	1～4	1	
		10060	人文社会科学における法	1～4	1	
		10026	イメージの比較文化学	1～4	1	
		10058	防災学入門	1～4	2	集中講義
		10083	マクロ経済学I	2～4	2	経済学類生は学域GS科目としては履修不可。 国際学類生は「日本経済論」を学域GS科目としては履修不可。
		10084	ミクロ経済学I	1～4	2	
		10087	経営学概論	1～4	2	
		10088	経済史	2～4	2	
		10082	基礎統計学	1～4	2	
		10085	経済学史	2～4	2	
		10086	日本経済論	1～4	2	
		10089	経済事情（日本の財政金融と北陸経済）	2～4	2	
		10093	金沢大学の歴史を学ぶ（自校教育入門）	1～4	1	重複履修不可
		10094	泉鏡花と金沢アート（STEAM教育入門）	1～4	1	
		100aa	質的統合法（KJ法）基礎を学ぶ	1～4	1	
	10096	イノベーション人材論	1～4	1	重複履修不可	
	10092	アジア研究基礎	2～4	1		

科目区分	科目番号	科目名	学 年	単位数	備考（履修制限等）		
専門教育科目	学域俯瞰科目	10027	現代日本の文化と社会	2～4	1		
		10028	地域創造学 1	2～4	1	地域創造学類生は学域GS科目としては履修不可	
		10029	地域創造学 2	2～4	1		
		95050	教育の制度と経営	3～4	2		学校教育学類以外
		95270	生徒の生活と進路の指導論	3～4	2	学校教育学類以外	
		12BAB00	教育の思想と歴史（日本）	1～4	1	学校教育学類共同教員養成課程生は必修科目（学校教育学類共同教員養成課程生のみ履修可）	
		12BCB00	教育制度概論（就学保障と学校安全）	2～4	1		
		12BGB00	道徳教育論（指導法）	3～4	1		
		12BNA00	子どもの生活とキャリア教育	2～4	1		
		100ab	ベーシック法学	—	2		
		学域GS俯瞰発展系科目群（※1参照）は別に定める。					
	GS科目発展系科目群（※2参照）は別に定める。					国際基幹教育院提供	
	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	10070	データサイエンスの技術	1～4	1	
			10063	国際経済の理論とデータ	2～4	1	国際学類生・経済学類生は履修不可
			10064	国際貿易の理論とデータ	2～4	1	国際学類生・経済学類生は履修不可
			10065	データの活用にむけた線形代数学入門	2～4	2	令和3年度入学の学校教育学類生は履修不可。幾何学概論Ⅰと幾何学概論Ⅱとの同時履修は不可
			10066	情報処理	2～4	1	経済学類生は学域GS科目としては履修不可
			10067	計量政治分析実習	3～4	2	法学類生は学域GS科目としては履修不可
			10080	人文学のためのデータサイエンスA	1～4	1	
			10081	人文学のためのデータサイエンスB	1～4	1	
			10097	政治・行政の調査と分析A	1～4	1	
			10098	政治・行政の調査と分析B	1～4	1	
			1000A	学校教育データサイエンス応用A	3～4	1	
			1000B	学校教育データサイエンス応用B	3～4	1	
			1000C	地域情報分析概論Ⅰ	1～4	1	
			1000D	地域情報分析概論Ⅱ	1～4	1	
			1000E	機械学習による企業の競争優位性の創出	1～4	1	
10068			統計学技能Ⅰ	—	2		
10069	統計学技能Ⅱ	—	3				
学域データサイエンス系発展系科目群（※1参照）は別に定める。							
GS科目発展系科目群（※2参照）は別に定める。					国際基幹教育院提供		

※1 当該科目群の提供科目については別に定めるものとし、履修登録期間前に公示する。

※2 学域GS科目として、本学域が提供する科目に加えて、国際基幹教育院が提供する「GS科目発展系科目群」の科目（GS科目の発展系として位置づけられる科目を言う。）を履修することができる。

なお、当該科目群の提供科目については別に定めるものとし、履修登録期間前に公示する

※3 学校教育学類以外の教員免許取得のための科目でもある「教育の制度と経営」及び「生徒の生活と進路の指導論」は本規程第8条第2項に従い、履修登録単位数の上限（CAP）の対象としない。

## 【学域G S言語科目】

学域G S言語科目は、人間社会学域専門教育科目の基礎的な内容を英語で話し、書き、発表することができるようになること、ひいては様々な実践的英語力を身につけ海外留学希望者の専門的な英語力の底上げを図ることを目的とした専門教育科目です。主に2年次に開講します。「学域G S言語科目Ⅰ」（1単位）、「学域G S言語科目Ⅱ」（1単位）及び「学域G S言語科目Ⅲ」各科目（各1単位）の中から2科目2単位修得する必要があります。「学域G S言語科目Ⅲ」各科目については、それぞれ別個の科目として扱います。したがって、例えば「学域G S言語科目Ⅲ (Presentation)」と「学域G S言語科目Ⅲ (Science and Society)」の2科目を修得した場合、2科目2単位を修得する条件を満たしたことになります。しかし、「学域G S言語科目Ⅰ」について2つの異なるクラスの単位を修得した場合は、2科目2単位を修得する条件を満たしたことはありません。

なお、学域G S言語科目は単位の重複履修が認められています（時間割が同じ時限の科目履修は不可）。

ただし、本学類では2単位を超えて修得した学域G S言語科目の単位は卒業要件単位に含まれません。

人間社会学域規程 別表第3-2 学域G S言語科目単位配当表

科目区分	科目番号	科目名	学年	単位数	備考	
専門教育 科目	学域GS 言語科目	10101	学域GS言語科目Ⅰ	2～4	1	
		10102		1～4		
		10103	学域GS言語科目Ⅰ（日本語）		1	留学生対象
		10201	学域GS言語科目Ⅱ	2～4	1	
		10202		1～4		
		10203	学域GS言語科目Ⅱ（日本語）		1	留学生対象
		10401	学域GS言語科目Ⅲ (Presentation)	2～4	1	未来創成教育 環開講
		10402	学域GS言語科目Ⅲ (Interaction)	2～4	1	
		10403	学域GS言語科目Ⅲ (English for STEM)	2～4	1	
		10404	学域GS言語科目Ⅲ (Science and Society)	2～4	1	
10405	学域GS言語科目Ⅲ (Reading and Discussion)	2～4	1			

※ 開講時期及び履修方法等の詳細は各学類で別に定める。ただし、学域G S言語科目Ⅲの開講時期は未来創成教育環が別に定める。

※ 科目番号10102及び10202は、海外研修等による単位認定時のみ使用する。

※ 科目番号10103及び10203は、日本語学習が必要と認める外国人留学生のみ履修可能な科目である。

また、授業による履修のほか、以下①～②の方法での単位修得も可能です。詳細は掲示等で案内します。

### ① 外部検定試験による単位認定

外部検定試験で所定のスコアや成績を得た者は、申請により、学域G S言語科目の単位認定を受けることができます。

対象となる外部検定試験等は下表のとおりです。

試験名	スコア等成績	認定単位
TOEIC (Listening & Reading Test)	630 以上	「学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱ」 2単位
TOEIC (Listening & Reading IP Test)	630 以上	
TOEFL iBT	64 以上	
TOEFL-ITP	513 以上	
IELTS	5.5 以上	

\*単位認定についての留意事項

- ・ 成績評価は「認定」となります。

- ・ 認定された科目はGPA算出の対象外となります。
- ・ 認定単位数は、クォーターで定められた上限単位数には含めません。
- ・ 本制度による「学域GS言語科目」認定単位は2単位を限度とします。「学域GS言語科目Ⅰ・Ⅱ」のうち、既にどちらか1単位を修得している場合は、未修得の残りの1単位分を認定します。

## ② 派遣留学や海外研修による単位修得方法

派遣留学や海外研修を行った者は、申請により、学域GS言語科目等の単位を修得することができます。民間企業、各種団体などが提供するプログラム等への自主的な参加による海外研修に対しても単位を認定できる場合があります。単位認定科目として、異文化体験（海外）Ⅰを選択することも可能です。詳細は掲示等で案内します。

### 【学類英語演習と英語の外部検定試験受験義務について】

学類英語演習は必修の学類専門科目です。本学の規定として、在学中に最低2回の英語外部検定試験を受験し、定められたスコアを取得することが求められています。地域創造学類では、学類英語演習の単位を取得することで、2回目の外部検定試験の受験とスコアの要件を満たしたものと認定します。詳細は、学類英語演習のシラバスにてお知らせします。単位取得要件は2年生進級時に所持しているスコアによって異なりますので、自分の要件をしっかりと確認してください。

#### ●対象となる外部検定試験

TOEIC (Listening & Reading Test) , TOEIC (Listening & Reading IP Test) , TOEFL-iBT, TOEFL-ITP, IELTS

注：TOEIC (Listening & Reading Test) , TOEIC (Listening & Reading IP Test) 以外の検定については、スコアをTOEICに換算して判定します。換算表は掲示板に掲示されますので確認してください。

#### ●履修登録

2年生進級時に事務職員の方で全員の登録をします（各自で履修登録する必要はありません）。基準を満たして成績が付与されるまでは保留の扱いとなりますがGPAには影響がありません。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は、別表Aに示された授業科目から8単位以上を修得しなければなりません。

別表A 専門基礎科目

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	必修	選択	対象学年
専門基礎科目	15041	地域創造学Ⅰ	1	1		1年
	15042	地域創造学Ⅱ	1	1		1年
	15043	地域創造学Ⅲ	1	1		1年
	15038	学類英語演習	1	1		2年
	15044	学類基礎演習ⅠA	1			2年
	15045	学類基礎演習ⅠB	1		2	2年
	15046	学類基礎演習ⅠC	1			2年
	15047	学類基礎演習Ⅱ	1		2	2年
	15048	地域創造インターンシップⅠ	4		4	2年
	15049	地域創造インターンシップⅡ	1		1	1年
	15050	地域創造インターンシップⅡ	2		2	1年
	15051	地域創造インターンシップⅡ	3		3	1年
	15052	地域創造インターンシップⅡ	4		4	1年
	15025	異文化体験(海外)Ⅰ	1		1	1年
	15026	異文化体験(海外)Ⅰ	2		2	1年
	15027	異文化体験(海外)Ⅰ	3		3	1年
	15028	異文化体験(海外)Ⅰ	4		4	1年
	15029	異文化体験(海外)Ⅰ	5		5	1年
	15030	異文化体験(海外)Ⅰ	6		6	1年
	15031	異文化体験(海外)Ⅰ	7		7	1年
	15032	異文化体験(海外)Ⅰ	8		8	1年
	15053	地域創造プロジェクト講義A	1		1	1年
	15054	地域創造プロジェクト講義B	1		1	1年
	15055	地域創造プロジェクト講義C	1		1	1年
	15056	地域創造プロジェクト講義D	1		1	1年
	15057	地域創造プロジェクト講義E	1		1	1年
	15058	地域創造プロジェクト講義F	1		1	1年
	15059	地域創造プロジェクト講義G	1		1	1年

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	必修	選択	対象学年
専門基礎科目	15060	地域創造プロジェクト講義H	1		1	1年
	15061	地域創造プロジェクト講義Ⅰ	1		1	1年
	15062	地域創造プロジェクト講義J	1		1	1年
	15077	地域創造プロジェクト講義K	1		1	1年
	15078	地域創造プロジェクト講義L	1		1	1年
	15079	地域創造プロジェクト講義M	1		1	1年
	15080	地域創造プロジェクト講義N	1		1	1年
	15081	地域創造プロジェクト講義O	1		1	1年
	15082	地域創造プロジェクト講義P	1		1	1年
	15083	地域創造プロジェクト講義Q	1		1	1年
	15084	地域創造プロジェクト講義R	1		1	1年
	15085	地域創造プロジェクト講義S	1		1	1年
	15086	地域創造プロジェクト講義T	1		1	1年
	15063	地域創造プロジェクト演習A	1		1	1年
	15064	地域創造プロジェクト演習B	1		1	1年
	15065	地域創造プロジェクト演習C	1		1	1年
	15066	地域創造プロジェクト演習D	1		1	1年
	15067	地域創造プロジェクト演習E	1		1	1年
	15068	地域創造プロジェクト演習F	1		1	1年
	15069	地域創造プロジェクト演習G	1		1	1年
	15070	地域創造プロジェクト演習H	1		1	1年
	15071	地域創造プロジェクト演習Ⅰ	1		1	1年
	15072	地域創造プロジェクト演習J	1		1	1年
	15073	地域創造プロジェクト実習A	1		1	1年
	15074	地域創造プロジェクト実習B	1		1	1年
	15075	地域創造プロジェクト実習C	1		1	1年
	15076	地域創造プロジェクト実習D	1		1	1年

- ※ 1 学類基礎演習Ⅱは、異なる教員の担当する科目を 2 科目 2 単位修得すること。
- ※ 2 選択科目は 4 単位まで自由選択科目に算入できる。
- ※ 3 選択必修科目で修得要件を超えた単位数は、上限なく自由選択科目に算入できる。

備考 1. 8 単位を越えて修得した単位は、自由選択科目として卒業要件に含めることができる（ただし、選択科目は 4 単位まで加算可）。

注「地域創造インターンシップⅡ」「異文化体験(海外)Ⅰ」については、必ずアドバイザー教員等の事前事後指導を受けなければならない。詳細はシラバスを確認すること。なお、様式はWebClassから入手できる。

(3) 専門科目の履修

専門科目の履修については、地域創造学類細則に定める別表第 1 B 及び別表 B～F にしたがって単位を修得しなければなりません。

別表第 1 B 専門科目の単位修得要件

地域課題科目群	選択プログラム	19
	選択プログラム以外	6
地域創造科目群	選択プログラム	12
	選択プログラム以外	6
地域創造学特別演習		1
卒業演習		4
卒業研究		6
合計		54

備考 各プログラム専門科目の履修方法は、別表 B～F に定めるとおりとする。

(4) 自由選択科目

自由選択科目として16単位以上を修得しなければなりません。自由選択科目として、単位が加算されるものは、以下に示す通り、5つの場合があります。

- ① 学域GS科目で、8単位を超えて修得した単位数
- ② 専門基礎科目で、8単位を超えて修得した単位数（選択科目は4単位まで加算可）
- ③ 選択プログラムの単位修得要件を超えて修得した専門科目の単位
- ④ 選択プログラム以外の単位修得要件を超えて修得した専門科目の単位
- ⑤ 他学域・他学類の専門教育科目の単位数（16単位まで加算可）

注 人間社会学域規程別表第7から第9に掲げる科目の単位は、卒業に必要な単位数に含めることができない（教育の基礎的理解に関する科目等及び各教科（保育内容）の指導法、大学が独自に設定する科目、特別支援教育に関する科目）。

ただし、別表第7の「教育の制度と経営」及び「生徒の生活と進路の指導論」は学域GS科目として含めることができる。

## 人と自然の共生プログラム専門科目

別表B 地域課題科目群

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	必修	選択必修	対象学年	備考		
専門科目	人と自然の共生プログラム	35A01	環境経済論Ⅰ	1		12	2年		
		35A02	環境経済論Ⅱ	1			2年		
		35A03	食環境学	2			2年		
		35A04	栄養生理学	2			3年		
		35A05	自然環境基礎論	2			2年		
		35A06	自然環境と社会	2			2年		
		35A07	自然環境論A	1			2年		
		35A08	自然環境論B	1			2年		
		35A09	資源活用と環境共生	2			2年		
		35A10	防災・減災と地理学	2			2年		
		35A11	生態系サービス基礎論	2			2年		
		35A13	ヘリテージ・インタープリテーション	2			3年		
		35A14	環境と観光	1			2年		
		35A17	環境社会学	2			2年		
		35A18	河川環境論	1			2年		
		35A19	防災・復興論	1			2年		
		35A20	災害時マネジメント論	1			2年		
		35A21	災害復興支援実習	1			2年		
		35A91	人と自然の共生プログラム専門演習	4	4			3年	通年科目（2学期）
		35A92	人と自然の共生プログラム専門実習	2	2			3年	通年科目（2学期）
	35A93	人と自然の共生プログラム共同演習	1	1		3年			
		35402	地域創造学特別演習	1	1		3年		
		35400	卒業演習	4	4		4年	通年科目（2学期）	
35401		卒業研究	6	6		4年	通年科目（2学期）		

\* 本表に掲げる「必修」「選択必修」とは、人と自然の共生プログラムを選択する学生にとって必修科目、選択必修科目であることを表す。

\* 人と自然の共生プログラムを選択する学生は、選択必修科目については本プログラムから12単位、他の地域課題プログラム2つから合計6単位を修得すること。

## 地域協働プログラム専門科目

別表C 地域課題科目群

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	必修	選択必修	対象学年	備考		
専門科目	地域協働プログラム	35B01	現代社会論	1		12	2年	偶数年度開講	
		35B02	現代社会論研究	1			2年	偶数年度開講	
		35B03	公共社会学	1			2年	奇数年度開講	
		35B04	公共社会学研究	1			2年	奇数年度開講	
		35B05	市民自治論	1			2年		
		35B06	地域居住論Ⅰ	1			2年		
		35B07	地域居住論Ⅱ	1			2年		
		35B08	景観論	1			2年		
		35B09	交通地理学	1			2年		
		35B10	中山間地域の地理学	1			2年		
		35B11	イベント経営論	1			2年		
		35B12	エンタテインメントマネジメント論	1			2年		
		35B13	生涯スポーツ論	1			2年		
		35B14	スポーツ文化論	1			2年		
		35B16	日本の地域システム	2			2年	奇数年度開講	
		35B17	北陸の地域と産業	2			2年	偶数年度開講	
		35B18	文化と地域経済	1			2年		
		35B23	北陸の都市・農村・文化	1			2年		
		35B20	コミュニティ・デザイン論	1			2年		
		35B21	観光地経営論	1			2年		
		35B22	生活デザイン論	1			3年		
		35B24	地域調査マネジメントⅠ	1			2年		
		35B25	地域調査マネジメントⅡ	1			2年		
		35B26	まちづくり論	1			2年		
		35B27	地域再生論	1			2年		
		35B91	地域協働プログラム専門演習	4	4			3年	通年科目(2学期)
		35B92	地域協働プログラム専門実習	2	2			3年	通年科目(2学期)
	35B93	地域協働プログラム共同演習	1	1		3年			
	35402	地域創造学特別演習	1	1		3年			
	35400	卒業演習	4	4		4年	通年科目(2学期)		
	35401	卒業研究	6	6		4年	通年科目(2学期)		

- \* 本表に掲げる「必修」「選択必修」とは、地域協働プログラムを選択する学生にとって必修科目、選択必修科目であることを表す。  
 \* 地域協働プログラムを選択する学生は、選択必修科目については本プログラムから12単位、他の地域課題プログラム2つから合計6単位を修得すること。

## 共生社会プログラム専門科目

別表D 地域課題科目群

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	必修	選択必修	対象学年	備考		
専門科目	共生社会プログラム	35C01	高齢者福祉論	2		12	2年		
		35C02	子ども福祉論	1			2年		
		35C03	障害学	1			2年		
		35C30	医療社会学	1			2年	奇数年度開講	
		35C31	アドボカシー論	1			2年		
		35C08	科学技術と社会	1			2年		
		35C09	雇用政策論	1			2年		
		35C10	現代社会と貧困	2			2年		
		35C11	家族支援論	2			2年		
		35C14	人類学的異文化理解 I	1			2年		
		35C15	人類学的異文化理解 II	1			2年		
		35C16	イスラーム社会と文化	1			2年		
		35C17	人の流動と定着	1			2年		
		35C18	ダイバーシティ促進	1			2年		
		35C19	人権論 I	1			2年		
		35C20	人権論 II	1			2年		
		35C21	国際開発論 1	1			2年		
		35C22	国際開発論 2	1			2年		
		35C23	国際開発論 1 E	1			2年		
		35C24	国際開発論 2 E	1			2年		
		35C25	国際協力体制	1			2年		
		35C26	SDGs 基礎	1			2年		
		35C27	SDGs 実践	1			2年		
		35C28	ジェンダー学	1			2年		
		35C29	ダイバーシティ論	1			2年		
		35C91	共生社会プログラム専門演習	4	4			3年	通年科目（2学期）
		35C92	共生社会プログラム専門実習	2	2			3年	通年科目（2学期）
		35C93	共生社会プログラム共同演習	1	1			3年	
			35402	地域創造学特別演習	1		1		3年
		35400	卒業演習	4	4		4年	通年科目（2学期）	
		35401	卒業研究	6	6		4年	通年科目（2学期）	

- \* 本表に掲げる「必修」「選択必修」とは、共生社会プログラムを選択する学生にとって必修科目、選択必修科目であることを表す。  
 \* 共生社会プログラムを選択する学生は、選択必修科目については本プログラムから12単位、他の地域課題プログラム2つから合計6単位を修得すること。

## 公共政策プログラム専門科目

別表E 地域創造科目群

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	選択必修	対象学年	備考	
専門科目	公共政策プログラム	35D01	政策学基礎論	1	公共政策プログラムを選択する学生は本プログラムから12単位、地域マネジメントプログラムから6単位を修得すること。	2年	
		35D02	地方政府論	1		2年	
		35D03	政策リサーチ	1		2年	
		35D04	リスクコミュニケーション	2		2年	
		35D05	地域社会のリスクガバナンス	1		2年	
		35D08	社会政策論	2		2年	
		35D09	介護政策論	2		2年	
		35D27	観光の公衆衛生学	1		2年	
		35D13	社会保障論	2		2年	
		35D14	地域計画論	1		2年	
		35D15	農村計画論Ⅰ	1		2年	
		35D16	農村計画論Ⅱ	1		2年	
		35D17	政策社会学	1		2年	偶数年度開講
		35D18	政策社会学研究	1		2年	偶数年度開講
		35D19	伝統文化変容論	1		2年	
		35D20	公共哲学	1		2年	
		35D21	地方財政論	2		2年	
		35D22	労使関係法	2		3年	
		35D23	基礎社会統計学Ⅰ	1		2年	
		35D24	基礎社会統計学Ⅱ	1		2年	
35D25	地域分析理論Ⅰ	1	2年				
35D26	地域分析理論Ⅱ	1	2年				

## 地域マネジメントプログラム専門科目

別表F 地域創造科目群

科目区分	科目番号	授業科目名	単位数	選択必修	対象学年	備考	
専門科目	地域マネジメントプログラム	35E01	ソーシャル・ビジネス論	2	地域マネジメントプログラムを選択する学生は本プログラムから12単位、公共政策プログラムから6単位を修得すること。	2年	
		35E02	経済地理学	2		2年	
		35E03	比較地域経済論1	1		2年	
		35E04	比較地域経済論2	1		2年	
		35E05	文化と消費社会	1		2年	
		35E06	流通・消費と環境共生	2		2年	
		35E07	農村戦略論	2		2年	
		35E08	コモンズ論	1		2年	
		35E09	住環境計画	1		2年	
		35E10	パブリックスペース論	1		3年	
		35E11	社会システム論	1		2年	奇数年度開講
		35E12	社会システム論研究	1		2年	奇数年度開講
		35E13	マーケティング・マネジメント論	1		2年	
		35E14	健康フィットネス論	1		2年	
		35E15	地域福祉共治論	2		2年	
		35E18	地域社会学	1		2年	
		35E19	観光社会学	1		3年	
		35E20	北陸観光産業論	1		2年	
		35E21	持続的な観光	1		3年	
		35E22	ローカルコモンズ論	1		2年	
		35E23	自然観光論	1		2年	
		35E24	観光開発・計画論	1		2年	
		35E25	都市計画	1		3年	
		35E26	計画プロセス	1		3年	
		35E27	非営利組織運営論	1		2年	

### 3. 選択プログラム

1年次の間は、共通教育科目や1年次用に開講される学域GS科目、専門基礎科目を履修しますが、2年次からは学域GS言語科目のほか、各プログラムの専門科目を中心に学びます。地域創造学類におかれているプログラムは次のとおりです。

(地域課題科目群)	(地域創造科目群)
人と自然の共生プログラム	公共政策プログラム
地域協働プログラム	地域マネジメントプログラム
共生社会プログラム	

学生は、プログラムのうち地域課題科目群から一及び地域創造科目群から一を選択して履修します。

ただし、地域課題科目群のプログラムについては、学生が履修する専門演習・専門実習（いわゆるゼミ）の教員が担当するプログラムを選択して履修する必要があります。各ゼミには定員が設けられており、定員を超過した場合はGPA値（2年次まで）による選考を行います。プログラムごとのゼミ定員の総和が、そのプログラムを履修できる学生数の上限である「適正上限数」となります。選考結果によっては、第2志望以下のゼミを選択することになり、その結果として、第2志望以下のプログラムを選択し履修することもありえます。ゼミの選択は、2年次後期に行います。

地域創造科目群の「公共政策プログラム」と「地域マネジメントプログラム」の双方で12単位を修得した学生には、卒業時に認定証を授与します。詳細は、4年次後期に掲示します。

### 4. 転学類

地域創造学類での学習が自分の考えていたものと違った場合、他の学類に転学類を願い出ることができます。転学類の出願期間は、1年次の10月上旬です。2年次以降転学類を願い出た場合は、4年間での卒業ができないこともあります。また、転学類は転学類先の学類が定めた方法（転学類を認める人数、転学類を認める諸条件および手続き等）によって行います。転学類を希望する学生は、転学類先の学類の条件や方法などに注意してください。転学類に関する案内は、7月下旬に掲示板に発表されますので参考にしてください。

### 5. 選択プログラムの変更

選択したプログラムでの学習が自分の考えていたものと違った場合、他のプログラムに変更を願い出ることができます。ただし、地域課題科目群のプログラム変更は、2年次後期に公示された適正上限数の範囲内において実施します。なお、選考を経て地域課題科目群のプログラムを変更した場合でも、専門演習・専門実習については、変更後のプログラム内において定員を充足していない演習・実習の中から選択して履修する必要があります。また、変更前の単位の修得状況によっては4年間での卒業ができないこともあります。地域課題科目群のプログラムにあっては3年次12月、地域創造科目群のプログラムにあっては3年次12月及び4年次12月に出願期間が設けられています。

地域課題科目群のプログラムは変更せずに、履修する専門演習・専門実習の担当教員を変更したい場合でも、原則として定員を充足していない専門演習・専門実習の中から選択する必要があります。また、GPA等による選考を実施します。

## 6. 英語による履修プログラムについて

本学の推進する「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」というテーマに基づき、本学類では英語で行われる授業により構成されたプログラム（以下、英語プログラム）を開設しています。英語プログラムでは、地域課題にグローバルな視点から取り組むことができる高度人材養成を目的としています。

英語プログラムで修得できる単位には一定の条件があります。英語プログラムへの参加希望届の提出期間は1年次の4月の履修登録期間で、これを過ぎて途中から参加することはできません。英語プログラムへの参加を希望する学生は、入学時のガイダンスおよび掲示板に発表される情報を参考にしてください。

## 7. 副専攻

### (1) 制度の趣旨

この制度は、学生の皆さんの自由な選択にゆだねられている自由選択科目の枠を利用して、特定の学問領域について一定の科目を履修することで、副専攻を認定するものです。学類間、学域間で副専攻を履修することで、より広範な知識と学際的なものの見方を修得することができます。

各副専攻は、所属する学類・選択したプログラムでの専門分野に関する学習と平行して、関連分野に関する知見を広げ、幅広い視野を身につけ、専門性に裏付けられた教養人として自己を形成していく上で手助けとなります。就職のための資格を得るのに有利となるなど、多様な性格を持っていますので、それぞれの関心に応じて自由に選択してください。

金沢大学の全学類で提供されている副専攻は、<https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/contents/3491>に示されています。

### (2) 認定の方法

所定の期間内に副専攻の登録を行い、卒業時まで所定の科目及び単位数を修得し、最終判定に合格した学生について、副専攻を認定します。認定は、最終学年の前期又は後期に提出する副専攻修了認定申請書に基づいて行われ、認定された学生には副専攻修了証明書が交付されます。

### (3) 具体的な手続きについて

副専攻の登録は、2年次以降の履修登録期間に1つの分野（主専攻を除く）に限り、登録申請をすることができます。これ以降、各学年の履修登録期間に併せて副専攻の登録、変更、取り消しの申請をすることができます。副専攻修了認定申請書の提出は、最終学年の前期又は後期の履修登録期間中です。上記の具体的な手続きの申請期間は、掲示物等で確認してください。

### (4) 補足

この制度は、希望する学生のみを対象とするもので、主専攻に専念したいと考える学生や、副専攻という形を取らずに幅広い科目の履修を目指す学生に強制するものではありません。また、卒業要件となる制度でもありません。